

令和5年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

愛媛県立吉田高等学校

1 取組の目的

- (1) 西日本豪雨災害の経験をもとに、地域の地理的特徴を理解し、自他の命を守るために必要な確かな意思決定と果敢な行動力を身に付ける。
- (2) 「安全教育」と「安全管理」、そしてこの両者を円滑に進めるための「組織活動」を一体とした活動の推進を図る。
- (3) 防災士資格取得者を中核教員として位置づけ、モデル地域内における学校間での連携や自治体との連携など地域と一体となった取組を実施する。

2 取組の内容

5月10日 1年生 総合的な探究の時間（防災講話）

宇和島市総務企画部 危機管理課 防災推進アドバイザー 山口賢司 様
講演内容：地震のメカニズム、地震・大雨災害について



5月24日 1年生 総合的な探究の時間（防災町歩き）

宇和島市総務企画部 危機管理課 防災推進アドバイザー 山口賢司 様



6月7日 宇和島市指定避難所用機材の確認

投光器、簡易トイレ、簡易ベッド、備蓄品等の確認
各学年生徒分の備蓄品を第3教棟4階倉庫に保管



6月9日 1年生 HR 活動

防災備蓄品確認（長期保存水・クラッカー・防災リュック）の配布

6月14日 1年生 総合的な探究の時間

校舎内危険箇所点検



6月15日 第1回防災退避訓練（全校生徒対象）

防災講演会 宇和島市企画総務部 危機管理課 防災アドバイザー 山口賢司 様



7月6日 ソーシャルチャレンジ for High School 事業

地域の課題解決プロジェクト（防災教育）講演会

愛媛県立歴史文化博物館 専門学芸員 大本敬久 様

講演内容：「過去の災害に学ぶ～吉田付近の地震・津波・水害史～」



7月25日 家庭クラブ

ポリ袋クッキング（調理器具の使用を最小限に抑えた調理方法）



8月16日～17日 防災先進地視察

16日 福島県

石巻震災遺構大川小学校

東日本大震災津波伝承館

旧南三陸町庁舎

気仙沼市東日本大震災遺構伝承館（気仙沼向洋高校旧校舎）

三陸復興国立公園（岩井崎園地）



17日 兵庫県 人と防災未来センター



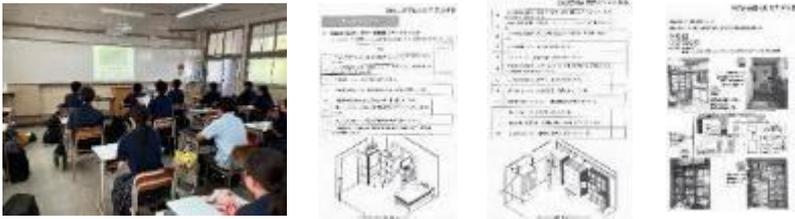
※館内は撮影禁止のため画像はHPよりお借りしました。

25日 視察報告（防災に関する情報共有）

9月12日 緊急地震速報受信装置設置



9月13日 総合的な探究の時間「防災点検」（高齢者宅 家具転倒防止器具の設置）①
宇和島市危機管理課、宇和島市社会福祉協議会、宇和島 NPO センターとの連携
視察報告、防災点検の意義について



9月20日 総合的な探究の時間「防災点検」（高齢者宅 家具転倒防止器具の設置）②
宇和島市危機管理課、宇和島市社会福祉協議会、宇和島 NPO センターとの連携
防災点検事前訪問



10月18日 総合的な探究の時間「防災点検」（高齢者宅 家具転倒防止器具の設置）③
宇和島市危機管理課、宇和島市社会福祉協議会、宇和島 NPO センターとの連携
防災点検訪問計画



10月25日 総合的な探究の時間「防災点検」(高齢者宅 家具転倒防止器具の設置)④
宇和島市危機管理課、宇和島市社会福祉協議会、宇和島 NPO センターとの連携
防災点検



11月3日 文化祭 避難所のモデル設置 (宇和島市防災備蓄品展示)



11月3日 防災に関する講演会
現福島県大熊町役場復興事業課 細川幸英 様 (吉田高校 0B)



11月16日 ウォークラリー遠足
歴史から見る吉田町内の災害について
赤松家庄屋跡地、海蔵寺、一乗寺、大信寺、医王寺、八幡神社



11月17日 防災ホームルーム活動
クロスロードゲーム (1年普通科)



11月24日 地元保育園との連携
オリジナル防災ソングの披露と園児との遊戯交流



12月18日 第3回防災退避訓練 「シェイクアウトえひめ」への参加

12月28日 新居浜市防災センター視察
中核教員による災害体験



3月11日 第3回防災避難訓練（緊急地震速報受信装置を使用した避難訓練の実施）

工業科における防災に関連する授業の取組

「課題研究」などの授業や部活動などにおける防災に関する研究や製作
機械建築工学科

- ・ 焚き火台

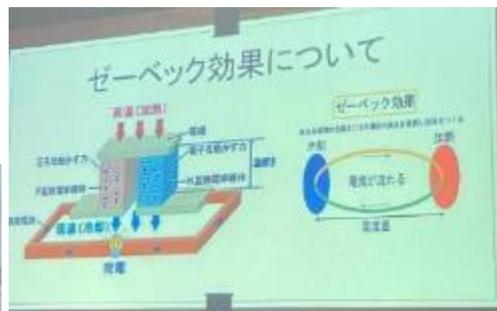


- ・ 簡易防災ベッド



電気電子科

- ・ 温度差を利用した発電機



3 取組の成果

地域の地理的特徴に応じた、防災に必要な行動力を身に付けるために、「安全教育」と「安全管理」を一体とした「組織活動」の推進を図るため、モデル地域と一体となった取組を実施することを目的とした今回の取組は、その目的を十分果たせたと考えている。

地域の地理的特徴である、入り組んだ海岸線のすぐそばから山が広がる地形から想定される被害は、地震後の津波や土砂災害である。そのため、地震後の津波から逃れるために、どのルートでどこに避難すべきかを考える必要があった。そのことを生徒に思考

させるために、「過去の災害に学ぶ～吉田付近の地震・津波・水害史～」と題した講演会をはじめとした専門家からの情報のインプットを行った。そして、それらの知見を身に付けたうえで「防災町歩き」や「防災ウォークラリー遠足」などで地域の実態を確認した。これらの経験を踏まえ、地域の要望なども配慮し、どのように行動するかを考えた。その結果、幼児でも容易に地震後の津波の被害から逃れる方法を理解できるように「防災 Song」の制作、さらに、地域住民に占める高齢者の割合が特に高い地域性に配慮した高齢者宅の家具転倒防止器具の設置のための「防災点検」、これらの2点に焦点化した活動をアウトプットできた。

全ての活動を通し、生徒、教員の防災意識の高揚はもとより、地域の実態や防災組織についての理解が深まった。さらに、「国語」「地理」「歴史」「音楽」「フードデザイン」「保育」そして工業科目といった学校での学びの目的を防災に向かわせることで、それらが社会にどのように生かされるかを生徒自身が身をもって体得できるという「社会に開かれた教育課程」を実現することができた。このことは、「宇和島市にある普通科と工業科の併設校として、学校での学びと社会をつなげる探究型学習を通して、課題を発見し解決する学習やものづくりに取り組むとともに、未来を切り拓く資質・能力を育成します。」と掲げたスクールミッションに沿った形で実施できた。

4 今後の課題

具体的な課題としては、危機管理マニュアルの見直しでは、地震発生時の第2次避難ルートである。現在、避難場所を3か所設定し、そこまでのルートを3ルート設定している。そのうち、最も標高が高い難場所までのルートは土砂災害危険区域に指定されており、このルートを使用するのは地震発生後には適切でないとの指摘があった。また、最も標高が低いものの移動距離が最短の避難場所が現在工事中で進入できないこともわかった。このように、災害時にしか使用しない準備物、特に避難所用等の機材のみならず、避難ルートなどの見直しなどが重要であると感じた。今後は、学校外の避難所の現地確認を定期的実施したいと考えている。

学校評価アンケートでは、生徒対象には「あなたは、避難訓練や AED の講習等の防災教育により非常変災時に対応する能力が身に付きましたか」、教員・保護者には「学校では、避難訓練や AED の講習等の防災教育により非常変災時に対応する能力が身に付ける指導が適切に行われていると思いますか」との質問に対し4段階評価で実施した。

	生徒	教員	保護者
令和4年度	3.3	3.3	3.0
令和5年度	3.4	3.3	3.0

その結果、教員・保護者については昨年度と変わらず、生徒については昨年度と比べ0.1上昇した。想定よりは低評価であった。全校生徒を対象に実施された今回の取組であったが、全校生徒が一堂に参加できたのは講演会などの行事にとどまり、断片的であったという印象である。一方、「課題発見」、「解決法の考案」、「行動」という系統立てられたプロセスに参加したのは普通科1年生「総合的な探究の時間」の防災班(24名)だけであった。生徒の評価の伸び率が小幅であったのはこのことが原因であると考えられた。今年度は、1年生対象のウォークラリー遠足において、防災班の生徒が学習したことを各チェックポイントで説明する機会を設けたが、今後は、防災班の生徒たちがエキスパートとなり、活躍する場を設けることで全校生徒への波及を図り、生徒の防災に対する資質・能力を向上させたい。そのためには、芽生えかけた防災意識を枯らすことなく、負担の少ない教育活動が提供できるように、地域からの刺激も活用したい。